

(様式4)

令和6年3月4日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立砺波工業高等学校
校長 中 町 保

令和5年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

令和5年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

重点1 (学習活動)

通常の授業期間では、毎日学習する生徒は61.5%と昨年度の65.0%より減少した。しかし、朝学習への取り組みや資格取得に対する意識は高く、みんなで取り組むムードがあれば、自分も頑張れるという生徒が多い。

各学年の取り組みにより、朝の登校後の時間を朝学習に充てる生徒が増えた。内容は基礎的なワークを少しずつクリアしていくものだが、継続して行うことで計算力や英語力が徐々に向上している。

各学科で定める主たる資格を中心に重点的に指導・受検した。その結果、全員合格するなど多くの成果がみられた。ジュニアマイスター表彰者は、ゴールド19名(R46名、R312名)、シルバー4名(R46名、R318名)となり、ゴールド認定者が大きく増加した。特に2年生でゴールド認定者が10名となり、資格取得に対する意識の向上がうかがえた。

重点2 (学校生活)

生活習慣アンケートやQ Uアンケート等を実施し、生徒の実態把握・理解に努め、問題を抱える生徒の発見・予防・対応に取り組んだ。また、タブレットを用いた健康調査に、いつでも相談ごとを書き込めるようにした。

指導に注意を要する生徒についてケース会議を行い、情報を共有し、対応に共通理解を図った。また、職員会議毎に、問題を抱える生徒について情報交換し、全教職員での支援体制を整えた。

外部講師を招き、不登校について未然防止や対応についての校内研修を実施した。また『SOSの見つけ方・受け止め方』を配布し研修を行った。

スマホやネット利用について、外部講師を招聘したりアンケートを実施したりして、生徒がその利用の仕方や普段の生活を振り返る機会を持った。また、保健部では毎月保健だよりを発行し、生徒に体調管理について啓蒙した。

重点3 (進路支援)

就職希望者103名全員が内定。進学希望者53名中、52名の進学先が決定している。卒業予定者156名中155名、99.4%の進路が決定している。

1年時から進路希望を取り、工場や学校見学、進路ガイダンス、インターンシップを通して進路先を知り、3年次で就職希望者は一人2社以上見学し、進学希望者に向けて国数英物理の補習実施や個別添削指導、オープンキャンパスも行くように指導するなど、進路を決定するまでの流れができています。

重点4 (特別活動)

今年度は、体育大会、鷹工展などの学校行事をコロナ等の影響を考慮する必要がなく、通常開催できた。そのため、生徒主体でリーダーを中心とした活動を経験させることができた。

また、コロナ等の感染症の影響が少なくなり、日頃の活動や各大会の制限がなくなったため、部活動の取り組みに関して満足できた(満足度88%)と答える生徒が昨年(85%)より増えたと考えられる。

7 次年度へ向けての課題と方策

- ・年々増加する基礎学力不足の生徒に対する継続的な指導、学習意欲を高める工夫が必要である。
- ・ICT機器の効果的な活用を模索し、自宅学習や各科の実習、課題や朝学習への応用を図る。
- ・学科ごとに取り組ませたい資格検定を設定し、将来の進路へつながる取り組み・指導方法を工夫し、知事表彰やジュニアマイスター顕彰等を目標にさせるなど、多くの資格取得に挑戦する意欲を高める。

- ・長期欠席者が多く、多様な問題や悩みを抱えて授業や学校生活に集中できない生徒も散見され、生徒の様子・変化を見逃さず理解に努め、場合によって外部の専門家を積極的に活用し、チーム学校として組織的に対応する必要がある。
- ・小中学校ですでに問題を抱えているケースが多く、中学校との連携をさらに充実させ、入学後の新たな人間関係をスムーズに築いていけるような配慮が必要である。
- ・企業や進学先で必要なコミュニケーション能力や挨拶、マナーを授業や部活動、学校行事や学級活動などを通して継続的に指導するとともに、進学先や就職先と本人のミスマッチを防ぐための基礎学力の定着や職業意識の醸成を図る。
- ・学校行事を通して生徒主体でリーダーを中心とした活動をもっと充実させたい。そのために、体育大会や鷹工展の準備時間を多くとれるよう配慮する必要がある。
- ・部活動のさらなる充実や成績の向上には、外部指導員を積極的に活用し、指導者と生徒が運営方法などについて話し合うなど、お互い協力しながら活動していくことが必要である。